

1 研究テーマについて

コミュニケーションツールの変化や人間関係の希薄化、情報があふれている現代社会において、児童生徒にとってより良い人間関係を構築していくための表現力や、自分で考え判断に必要な情報を取捨選択していく力が、今まで以上に重要なものとなってくる。

今年度も昨年度と同じ研究テーマのもと、研究を深めていく。昨年度は、「読み」における言語活動の充実を図った。今年度は、「離すこと・聞くこと」における言語活動を通して、“思考力・判断力・表現力”をどのように育むか研究していきたい。

2 研究の経過・予定

日程	研究内容
5/9	組織作り，研究テーマの決定，授業者などの決定
5/23	年間計画，研究授業について
6/13	研究授業について
8/6	夏季学習会（笛川小・齊藤昌志校長先生「話し方・聞き方のヒント」） 小中合同授業案検討会
8/29	夏季統一授業研究会（小学校実践）
9/19	授業研究後の様子，実践発表・意見交換
11/28	実践発表・意見交換
1/9	小中合同授業案検討
2/6	統一授業研究会（中学校実践）
2/13	研究のまとめ

3 共同研究者

指導・助言 齊藤 昌志（笛川小） 雨宮 弘志（奥野田小） 岡村 太郎（八幡小）
 部長 松岡 めぐみ（山梨小） 副部長 志村 貴美子（日下部小）
 部員 渡邊 麻衣子（山梨小） 山本 諭（塩山北小） 岡村 理恵（奥野田小）
 茂手木ゆう子（井尻小） 前田 文（勝沼小） 田邊 珠紀（東雲小）
 菱澤 里美（東雲小） 笹本 愛（東雲小）

4 成果と課題

教師の投げかけによって、子どもたちが自分の考えをしっかりと話し合いに臨んでいた。ワークシート、グループ学習の設定の仕方などの工夫から、子どもたちが話題に沿って考え、話したり聞いたりすることができていた。司会シートで、話し合いを進めることが苦手な子どもも進行できていた。ただ、国語と学活の違いや、グループで一つのテーマにまとめることなどの点で課題が見えてきた。これからの国語科の学習指導において、今回見えてきた課題を踏まえて授業実践をしていく必要がある。また、実践交流などを通して様々な学習方法を交流し、子どもたちの実態を踏まえた授業実践を工夫していくことが大切である。

提案する文章を書くために、考えを明確にして話しあおう
～互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う～

第5学年 A話すこと・聞くこと (ア・オ)

言語活動例A-I

1 単元の目標

- (1) 問題について調べ、解決のための提案書を書くことに関心を持ち、問題に関する情報を集めたり、自分の考えをまとめたりしようとしている。【関心・意欲・態度】
- (2) 学校生活をよりよくしていくための提案を、収集した知識や情報を関連づけ、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。【Aア・オ】
- (3) 事実と感想、意見を区別して提案書を書き、書いたものがよりよくなるように推敲をしながら提案書を書くことができる。【Bア・ウ】
- (4) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。【伝国イ(カ)】

2 教材名

「明日をつくるわたしたち」(光村図書5年)

3 児童の実態

本学級は男子13名、女子10名の計23名の学級である。児童間の仲間意識が強く、まとまって活動することができ、休み時間はほぼ全員が外でドッジボールをして楽しんでいる。学級の活動では女子が先頭だつて声をかけることが多い。また、学級生活の中で不便なことがあると工夫してそれを改善していこうと声をかける児童も複数名いる。

しかしながら、授業中や学級活動での話し合いの場面でペアや班などの形態をとると、数人の児童が自分の意見を伝え、他の児童はそれに流される形で合意形成が行われる姿が見られる。自分の意見をもちながらも、それを言葉に表すことができず困ってしまう児童や、意見をもっていても主張しようという気持ちをもてない児童もいる。そうした児童に対しては、教師との対話の中で考えていることを言語化させたり、発言してみようと自信を持たせるように言葉かけを行ったりしている。

今回の学習では、「話すこと・聞くこと」の領域に関わって、話題に対して自分の意見を持った上で、話し合い活動の中で他者の意見と自分の意見とを比較し、折り合いをつけながら話し、更により意見を練り上げていく能力を伸長させていく。

4 指導の内容と言語事項、教材のかかわり

(1) 言語活動設定の意図

- 目的意識 ・自分たちの学校や学級での生活をよりよくしていくための具体策を考え、5年生の提案として代表委員会に提出する。
- 相手意識 ・同じ班の友だちと意見を出し合い、全校児童に納得してもらえるような提案書を完成させる。
- 場面状況意識 ・班での話し合いをもとに、班内で項目を分担して書き、校正、推敲を通して全員が関わりながら班での提案をまとめる。
- 方法意識 ・話し合いのポイントを意識して、自分の立場を明確に示した上でお互いの意見の共通点やよいところを認めながら折り合いをつけて話し合う。
- 評価意識 ・話し合いのポイントをふまえて班での話し合いを振り返る。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点

主体的な学びの視点から

『東雲小学校パワーアップ大作戦』と題して「自分たちの学校や学級での生活をよりよくしていくために、代表委員会で提案を行う」という目的意識を明確にして、話し合いや書く活動に取り組みさせることによって主体的な学びとなるようにする。

対話的な学びの視点から

班内や班間で提案書の内容について話し合う活動を通して、互いの考えの意図や共通点・相違点をつかみ、認め合いながら一つの結論を導いたりする力を身につけさせていく。

深い学びの視点から

話し合いの場面では友だちと意見を出し合いながら考えの違いを受け止めさせたり、考え方に広がりを持たせたりしながら比較検討して、結論を出すことができるよう、事前に教師が作成したモデル文を活用して話し合いの型やポイントに児童自身が気づけるようにする。また、児童が話し合いのポイントを意識して学習を進めたり、振り返ったりすることができるように、掲示物や配布物に示すようにする。本単元の話し合い活動の学習を通して、児童が計画的に話し合いを進めたり、相手の意見を受け止め折り合いをつけながら合意形成をしたりしていくことの大切さに気づき、今後の話し合い活動に活かしていくことができるようにする。

(3) 本単元の特徴

本単元では、他者を納得させることができるような提案書の作成を目指して「班ごとに自分の考えを明らかにして計画的に話し合う」・「自分たちの考えが伝わるように提案書を書く」という言語活動を取り入れている。

学習の中で児童の主体性を引き出すためには、児童が自ら進んで話したくなるような課題設定が必要である。そこで、本単元では「東雲小学校パワーアップ大作戦」と称して、学校生活をよりよくしていくための案を代表委員会で実際に提案することを目的とし、それに向けて班で協力して提案することを一つの案にまとめ、よりよい提案書をつくるという学習を設定することにした。児童から出てくる案としては、「みんなが楽しく過ごせる学校」を目指して「全校児童の絆を深める取り組み」や「ルールやきまりを守ってもらうための取り組み」など、よりよい学校生活

の推進を目指した案が出てくると考えられる。

班で提案することを決めていく話し合いの中では、自分の考えが相手に伝わるように主張と理由と根拠を明確に話したり、相手の意見と自分の意見を比較し共通点や相違点を見いだしたりしながら、折り合いをつけて話し合いを一つの結論にまとめていく事が求められる。活動の中で児童が、「どのように話したら、友だちを納得してもらえるか」「結論が導けるように話し合うにはどうしたらよいか」と思考・判断し、実際に話し合いの場面で表現していくことができるようにさせていきたい。そのために、教師が作成したモデル文を使って実際に話し合いの場面を再現する中で、話し合いの型や話し合いのポイントを考えさせ、それを意識しながら話し合えるように支援していく。また、話し合いの仕方を児童に慣れさせ、身につけさせるためにも、班での話し合いを本単元の中では二度設けるようにし、一度目の話し合いでの反省を踏まえて、二度目の話し合いに臨むことができるように意識づけていく。

提案書を書いていく中では、他者に読んでもらうという提案書の性質上、提案の趣旨を相手に簡潔に伝える必要があることを意識して、自分や友だちの書いた文章の言葉の使い方や文の流れが分かりやすいものになっているか推敲させる活動を設定する。

本単元においてはこれらの言語活動を通して、質の高い話し合いや説得力のある提案文の書き方を学習していくことで、本研究会の研究テーマである「思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導」の実現を目指していく。

5 指導計画と評価計画

(1) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	言語についての知識・理解・技能
①学校をよりよくしていくための取り組みについて自分なりに考え、伝え、話しあおうとしている。(関)	①提案することの内容をよりよくするために、自他の意見の違いを踏まえ、計画的に話しあっている。(1) オ	①事実と感想, 意見を区別して, 目的や意図に応じて提案書を書いている。(1) ウ	①言葉から受ける感じや, 言葉の使い方について関心をもち, 説得力が増すように表現を工夫している。 (イ(カ))
②班の提案書をより分かりやすくしようとしている。(関)	②収集した知識や情報を関連づけて話し合っている。(1) ア	②書いたものを読み合い, よりよくなるよう推敲している。(1) オ	

(2) 指導と評価の計画

	時	目標	主な学習活動	評価規準
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> 学級や学校での生活の中でよりよくしていきたいことについて自分の考えを書く。 学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期が始まるにあたり、これからどんな東雲小を目指していきたいか考え、「理想の東雲小の姿」「理由」「そのために自分ができること」の観点でワークシートにまとめる。 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>○ワークシート①使用</p>	<p>〔関①〕・話題に関する自分なりの考えをワークシートに書いている。</p> <p>(発表, ワークシート①)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> 班で一つの意見を導くために大切なことを考え「話し合いのポイント」としてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が作成したモデル文を聞いたり、実演したり分析したりする中でよりよい話し合い活動をするための話し合いの進め方を考える。 <p>○モデル文ワークシート使用</p>	<p>〔話・聞〕話し合いを円滑に進める方法が分かる。</p> <p>(発表, モデル文ワークシート)</p>
第2次	3 本時	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを明らかにした上で意見を整理しながら計画的に話し合い、提案することを一つの案にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを行い、班で話題とすることを一つの案にまとめる。 <p>○司会シート, ワークシート①②使用</p>	<p>〔話・聞①〕提案することの内容をよりよくするために、自他の意見の違いを踏まえ、計画的に話しあっている。(話し合い・映像記録)</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 提案書の内容を具体的にしたり、説得力を持たせたりするために必要な事を考え、資料集めの計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 説得力のある提案書を書くために必要な事を考える。 提案のための資料を集めるための役割分担をする。 	<p>〔関〕提案書を書くのに必要な資料を集めるための役割分担をしている。(観察)</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> 各自で調べたことを基に提案する内容について話し合い、メモにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 班で調べてきたことを基に提案書に書く内容を話し合い、まとめる。 <p>○ワークシート③使用</p>	<p>〔話・聞①〕収集した知識や情報を関連づけて話し合っている。(話し合い・ワークシート③)</p>
第3次	6	<ul style="list-style-type: none"> 提案書の書き方を確認し、分担を決め、分担した部分について下書きをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル文を分析し、説得力のある提案書の書き方を考える。 提案書の特徴を踏まえて、下書きを作成する。 	<p>〔書①〕事実と感想・意見を分けて書いている。</p> <p>(下書き)</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> 分担して書いた下書きを交流し、推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> 班のメンバー同士で下書きを読みあい、記述の仕方を見なおす。 	<p>〔書②〕提案に説得力が増すように、見直し、書き直している。(下書き)</p> <p>〔言①〕説得力が増すように表現を工夫している。(下書き)</p>

	8	・各々が分担して書いた提案書をまとめ、一つの提案書をつくる。	・班のメンバーの記述をまとめ、提案書を作成する。	〔書①②〕提案に説得力が増すように、言葉の使い方や事実と意見などを書き分けて表している。(提案書)
	9	・各班の提案書を発表し、感想を交流する。	・別の班の発表を聞き合い、感想を伝え合う。	〔関〕他の人が書いた提案書について、自分なりの考えを書いている。(付箋)
第4次	10	・学習をふり返り、学んだことを整理する。	・学習をふり返り、学習の成果をまとめる。 ○ワークシート④使用	〔関〕話し合いの仕方や提案の仕方を、他の場でもいやす意欲をもっている。(発言、ノート)

6 本時の指導

- (1) 日時 平成30年8月29日(水)
- (2) 対象 甲州市立東雲小学校 第5学年 児童23名
- (3) 目標 自分の考えを明らかにした上で意見を整理しながら計画的に話し合い、提案することを一つの案にまとめる。
- (4) 授業の展開

展開	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価
つかむ (7分)	1 本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時では、班で提案する話題を決めるために話し合うことを明示する。(事前に似た案の児童同士で班をつくっておく。) ・前時に学んだ「話し合いのポイント」を黒板に掲示し、確認する。 	
「話し合いのポイント」を意識して班で話し合い、一つの案にまとめよう。			
話し合う (18分)	2 「話し合いのポイント」を参考にしながら班ごとに話し合いを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに記録用紙を配布し、話し合いで出た内容を整理したり、記録したりする際に活用させる。 ・発表者には提案メモ(ワークシート①)をもとに自分の考えをはっきりさせて話すようにさせる。発表後は、提案メモを友だちに見えるように提示させ、お互いの意見を確認しながら話すことができるようにする。 ・教師は机間指導で班協議の様子を確認し、司会者が中心となり、考えを収束し、まとめられるように必要に応じて助言する。 	話・聞① (話し合い・映像記録) 関① (話し合い)

交流する (10分)	3 班で決めた問題を全体で交流する。	・ワークシート②に記録した事柄をもとに発表させ、話し合ったことを全体で共有化する。	
振り返る (10分)	4 話し合いを行う中で大切だと思ったことをふり返り、「話し合いのポイント」をもとに本時の活動を自己評価する。	・話し合いでの自分の取り組みの様子を「話し合いのポイント」に照らし合わせて振り返らせ、意識できたことや改善点を書かせる。	話・聞② (ワークシート①)

(5) 本時の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く
話し合いの中で自分の考えを伝えたり、相手の意見を聞いたりする中で、班の意見を一つにまとめようと協力している。	提案することの内容をよりよくするために、自他の意見の違いを踏まえ、計画的に話しあっている。(話し合い・映像記録)

充分満足できる	おおむね満足できる	支援を必要とする児童への手立て
理由を明確に示しながら自分の考えを話し、友だちの意見との共通点や相違点をはっきりさせながら一つの案を出すために話し合っている。	自分の考えを明らかにした上で、友だちの意見と比べた自分の立場を示し、一つの案を出すために話し合っている。	自分の考えを発表することが苦手な児童には、自分の提案メモや友だちの提案メモを見ながら発言をするように促す。

(6) 資料

- ・小学校学習指導要領 国語編 文部科学省
- ・国語5年『銀河』学習指導書 光村図書
- ・「話し合う力を育てる学習過程と授業づくりのポイント」『国語教育』2017年7月号 明治図書

7 指導の実際

【第1次】

1時間目 学級や学校での生活の中でよりよくしていきたいことについて自分の考えを書く活動

- ・2学期が始まるにあたって、今まで以上に東雲小学校をパワーアップさせていくにはどうしたらよいか、高学年生として考えてみようという話題を提示した。学校をよりよくしていくためには、5年生だけでなく、全校児童に協力してもらい活動を進める必要があり、そのためにはみんなを納得させるような提案を複数人で検討していく事が大切だと確認した。

○児童には初めに「理想の東雲小の姿」を挙げさせた。しかし、意見のみを述べるだけでは他者は納得しない場合がある事を確認し、「理由」や「そのために自分ができること(提案)」をつけて話すことの大切さに気づかせることができた。

△「理想の東雲小の姿(意見)」と「理由」と「そのために自分たちができること(提案)」を書き分けるこ

とができずに戸惑う児童もいたため、それらの違いを更に明確に押さえる必要があった。

- ・授業後に書いた考えの内容の似ている児童を集めて班編成を行った。

【第2次】

2時間目 班で一つの意見を導くために大切なことを考え「話し合いのポイント」としてまとめる活動

- ・児童に今までの話し合い活動での取り組みを振り返らせると共に、教師が用意した「話し合いの台本」を読み合わせながら以下の事柄を「話し合いのポイント」としてまとめた。

- ①話題に沿って話合う。
- ②意見を先に、理由を後に話し、自分の立場をはっきりさせる。
- ③友だちの意見を受けと止めて、自分の考えを伝える。

- 教師作成の台本をロールプレイングのように読み合っていくことで、司会の役割や話し合いで使うとよい言葉を確認しながら学習をすることができた。複数の意見の中から共通点を見いだして意見をまとめていく方法も簡単な課題を提示することで経験させることができた。

3時間目 考えを明らかにした上で意見を整理しながら計画的に話し合い、提案することを一つの案にまとめる活動(本時)

- ・本時は前時に確認した「話し合いのポイント」を踏まえて班で協力して話し合いを行い、提案書で話題とすることを一つの案にまとめていく活動を行った。

[以下授業研究後の研究討議で出た意見]

- 班での話し合いの中では、相手の意見を受けとめ、尊重して話す姿勢がどの児童にも見られた。
- 提案メモを使用して、話し合いを行ったことで、それぞれの児童が自信をもって自分の考えを相手に伝えることができていた。また、話し合いのポイントの一つであった「話題に沿って話す」ということは全員が達成できた。
- 「多数決なしで話し合いをおこなう」という条件を設定したことが、児童が粘り強く話し合うことのもとになった。
- △児童の話し合いに向き合う態度や振り返りシートへの記述の様子から主体的・対話的に話し合いに臨んでいる様子が分かったが、似た意見の児童を集めて班の編成を行ったことで、テーマにすることの言葉選びをするための話し合いになってしまい、中身の検討になっていない班があった。
- △約20分間の話し合いの中で、児童は集中して話し合いをしていたが、教師が途中で区切って、決まったことを整理したりしながら段階を踏んで話し合いを進めると、どの班も話し合いの内容をまとめる際にスムーズにいったのではないか。
- △教師のはたらきかけとして、各班の話し合いの中で出てきた良い意見や態度などを全体に広めることができると、更に児童の中で話し合いが深まったのではないか。
- △班によって意見の集約の仕方に差があった。出た意見を全て統合してまとめている班もあれば、それぞれの班員の意見からキーワードを見いだしてまとめている班もあった。そうした話し合いのまとめ方に対する評価の視点を設定してもよかった。
- △本単元の学習は「学活」での学習に近かったが、「国語」として児童に「話し合いの仕方」や「意見の集約の仕方」を学ばせる必要がある。

[児童の振り返りから]

- ・今回の話し合いは時間がかかったけど、みんなが自分の意見を取り入れてくれてうれしかった。
- ・司会をいつもやらないので、できるかなと思ったけれど、シートを見ながらやると、流れが分かった。みんなが協力してくれた。
- ・班のみんなの意見には自分の意見とにているところがあった。
- ・自分の班は意見が最後までまとまらなかった。次の時間に話し合うときは、よく話を聞いて、にているところを見つけたい。

- ・各班で決定した提案のテーマは以下の通り。

(網掛けの班は授業内で話し合いが終わらず、授業外の時間を使って話し合いをした班)

- 1班 ゴミがない、清潔で明るい学校 2班 明るく元気なあいさつができる学校
3班 あいさつをして気持ちよくしよう 4班 協力しあえる笑顔いっぱいの学校
5班 いじめやけんかをなくし明るく元気な学校



4 時間目 提案書の内容を具体的にしたり、説得力を持たせたりするために必要な事を考え、資料集めの計画を立てる活動

- ・前時の話し合いによって提案の大まかなテーマや行うことを決定したが、全校児童に協力してもらうには提案に更に具体性や説得力を増やしていく必要があることを確認した。児童は、提案に説得力を持たせるためには、自分たちの提案のテーマに関わる「東雲小の現状」と提案の「具体策」の資料を集めることに気づくことができた。インタビューやアンケート・本・パソコンなどを使った取材の仕方があることを確認した。

○班内で取材の役割分担をしたり、方法を決定したりしていく際に、児童が前時に使用した「司会シート」を使用して話を進めることができた。

○アンケートを作成して学校の現状を調査する班の中には、設定した質問項目が調査の趣旨にあっているかという視点で検討が行なわれている班もあり、児童自身が問題意識をもって学習に向き合う姿が見られた。

5時間目 各自で調べたことを基に提案する内容について話し合い、メモにまとめる活動

- ・班ごとに調べたことを基に、どのような内容の提案をしていくか話し合っ
てメモにまとめるようにした。

△児童の取材のための期間を1週間設けたことで、熱心に取材に取り組む児童と、情報がなかなか集まらない児童とで意欲に差ができてしまった。教師が事前に取材で使えそうな資料を提示するなどしてスムーズに活動できるよう支援すべきだった。

- この活動の時点で、学級の児童全員に「司会シート」を基に話し合いの司会を経験させることができた。
- 話し合うことの内容が具体的になってきたため、児童間の意見の交流が増えた。話し合いで出た意見が、実現可能かということや相手に伝わりやすいように具体的になっているかといった視点で検討している姿が見られた。

【第3次】

6時間目 提案書の書き方を確認し、分担を決め、分担した部分について下書きをまとめる活動

- ・教科書に掲載された提案書の例文を参考に、提案書の構成が「提案内容の要約」「提案の理由」「現状と問題点」「具体的な提案」の順に書かれていることを確認した。その構成を基に、班ごとに、書く内容を整理・分担し、実際に下書きを書いていった。

○例文を参考にする際に、話し合いの学習の中で大切にしていた「意見を述べるときは理由をセットにして相手に分かりやすく伝える」工夫が使われていることに児童が気づくことができた。

○前時までの話し合いの成果をプリントに記録し、いつでも参照できるようにしたことで、児童が活動を振り返りながら、下書きをまとめることができた。

7時間目 分担して書いた下書きを交流し、推敲する活動

- ・相手に分かりやすく伝えるために、「意見と理由がセットで書かれているか」「主語と述語が対応しているか」「説明が具体的になっているか」という視点で班ごとに各々が書いた文章を読み直し、推敲していった。

○児童の書いた文章の誤字脱字などは教師が事前に指摘するようにしたので、児童は与えられた視点に沿って、文章を読み直し、検討することができた。

○接続詞や「～してはどうだろうか」などの表現を進んで使っている児童が見られた。

△文章を読んで、主張している事柄とその理由が結びついていないと感じる児童も数名いたため、教師が指導するものもあった。ほとんどの児童は自分たちの班の書いた文章に満足していたため、誰にでも分かる具体的で説得力のある文になっているかどうか吟味させるのが難しかった。

8時間目 各々が分担して書いた提案書をまとめ、一つの提案書をつくる活動

- ・各班のメンバーが書いた文章を1枚の紙に貼り合わせていく形をとって、提案書をまとめた。文章に小見出しを付け足したり、発表の練習を行ったりすることができた。

9時間目 各班の提案書を発表し、感想を交流する活動

- ・他の班の発表を聞いて意見を交流する場面では、班での話し合いの中で出なかった指摘や質問が

出されることもあった。出た意見に対しては「自分たちの班とテーマは同じだけど提案が違う」「そんな視点もあったのか」と児童が気づき、メモをする様子も見られた。

【第4次】

10時間目 学習をふり返り、学んだことを整理する活動

- ・これまでの学習を振り返り、「話し合いをするとき」「提案書を書くとき」に大切なことをまとめていった。
- 「話し合いをするとき」に大切なことについては「意見と理由はセットにすると説得力が高まる」や「一人一人がテーマに沿って話し合うと、スムーズに話し合いが進む」といった実際に話し合っただけで感じたことを書いている児童も見られた。
- 多数決無しで協議することのよさとして、「多数決だと少ない方の意見が消えてしまうので、話し合いの方が時間はかかるけれどみんなの意見が取り入れられる」ということを挙げる児童が複数名いた。

8 成果と課題

- 自分たちの提案を実際に代表委員会に提出することを目標としたことで、児童に活動に対して見通しをもたせたり、意欲を高めたりすることができた。また、提案を行う相手を全校児童と設定したことで、相手意識をもたせながら学習を進めることができた。
- 活動で使用する「司会シート」やプリントをクリアファイルに入れて使用・保管させたことで、班の学習の際に児童が自ずとそれらを活用して話し合いを行っていくことができた。また、授業内で児童が考えた「話し合いのポイント」は教室の壁面に掲示したことで、国語以外での話し合いの際にも意識して活用する児童が増えた。
- △今回は話し合いの班を編制する際に、似た意見をもつ児童同士を同じ班にしたところ、言葉選びに始終してしまい、話し合いを深めていくことのできない班も見られた。今後は異なる意見をもった児童同士で班を編制し、より相手の話の意図を理解し検討していく必要のある話し合いを仕組んでいきたい。
- △単元の学習では、話し合い→取材→提案内容を決定する話し合い→提案書の作成にいたるまでに1ヶ月近くかかってしまった。ほとんどのグループが熱心に話し合ったり、情報を収集したりしていたが、文章にまとめる段階で自分の分担することが分かっておらず、友だちに手伝ってもらっている児童がいた。「国語」の授業の中で「話し合いの仕方」を学ばせるのであれば、話し方や話し合いの仕方に焦点を絞って、短い単元構成にした方が良かったように思う。
- △今回の授業の中で、児童に話し合いの形式を定着させることはできつつあるが、より深い話し合い活動を行えるようにしていくには、今後も色々な考えをもった児童同士が話し合う機会を意図的に設け、教師が助言しながら合意形成の仕方を指導していく必要がある。